

【重要】日本学術会議の大型研究計画マスタープランについて

日本気象学会会員各位、

日本気象学会理事長 新野 宏

日本学術会議では2010年に大型研究計画マスタープラン2010を策定し、2011年には小改訂が行われましたが、2014年4月の総会に報告されるマスタープラン2014の策定に向けての動きが急ピッチで進められつつあります。

10月9日に発表された日本学術会議科学者委員会「学術の大型研究計画検討分科会」委員長より示されたマスタープラン策定の方針

<http://www.jpgu.org/whatsnew/121019sakuteihoshin.pdf>によれば、

2013年2月 学術大型研究計画の公募開始

2013年3月 学術大型研究計画の公募締め切り

2013年6月 学術大型研究計画の策定

2013年12月 重点大型研究計画の策定

というタイムスケジュールが示されております。

今回のマスタープランの策定に当たっては、各分野の長期ビジョン・体系に立脚していること、すなわち、

学術会議日本の展望 <http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/tenbou/teigen.html> 及び

夢ロードマップ <http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-21-h132.html>

に描かれている長期的ビジョンの中に具体的な計画を位置づけることが求められており、学術研究領域が事前に定められることになっています。

また、提案者は、研究・教育機関長または部局長、学術会議会員または連携会員、学協会長などのいずれかとされており、提案には学術会議会員もしくは連携会員3名(会員1名をふくむ)の推薦が必要とされています。すなわち、個人が単独で提出することは想定されていません。

さらに、マスタープラン2014は、総数200件程度が想定され、諸観点から速やかに実施すべき計画25-30件が重点大型研究計画として選ばれる予定です。マスタープラン2010あるいは2011が総数40-50件であったことを考えると、200件という数は、学術に関わる重要な計画はもたさずに示すことが期待されていると考えられます。

つきましては、気象学会では学会員の皆様から提案を受け付け、学術委員会で検討して、必要に応じて気象分野から提案すべき計画を策定したいと考えております。11月30日までに、課題名、提案組織、提案責任者名、提案責任者メールアドレス、提案責任者所属、予算額、長期的ビジョンの中の位置づけ、国際的な研究の現状における位置づけ、研究計画と必要設備をA4で2

枚程度にまとめて、気象学会事務局 (jnetsoc@blue.ocn.ne.jp) までお送り下さい。

なお、日本学術会議地球惑星科学委員会は、日本地球惑星科学連合と協議し、地球惑星科学コミュニティにおいては、コミュニティの事前の議論・よりよい計画の立案のために、予備調査をおこない、その結果を公表することにしたとの通知が10月24日にありました。ただしこの予備調査に応募しなかったからといって、今後の計画立案や提案が受け付けられないというものではないとのことです。

予備調査に回答される場合は、以下をよくお読みいただき、趣旨および策定方針を御確認ください。回答は、11月15日までに下記専用フォームによるものとされています。

22期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定の方針：

<http://www.jpgu.org/whatsnew/121019sakuteihoshin.pdf>

大型研究計画マスタープラン改定について：

<http://www.jpgu.org/news/121019chosa.html>

予備調査について：

<http://www.jpgu.org/news/121019yobichosa.html>

★回答専用フォーム【締切11/15(木)】：

<https://ssl.formman.com/form/pc/H5dDnq20rlygdc8d/>